

第3回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会議事録

- 1 会議名 第3回 小淵沢周辺地区都市再生整備計画事業推進協議会
- 2 開催日時 平成27年1月8日(木) 午後2時30分～午後5時57分
- 3 開催場所 小淵沢総合支所1階大会議室
- 4 出席者(敬称略)
出席者
茅野 光一郎、小林 健展、高田 一彦、小林 千鶴子、草野 香壽恵、氏原 宏幸
鈴木 正吉、久保 秀博、小林 伸一、卯月 盛夫
欠席者
坂本 興一、清水 純子
事務局
神宮司 浩建設部長、高橋 一成小淵沢総合支所長、坂本 孝典まちづくり推進課長、
景観まちづくり担当リーダー植松 宏夫、唐澤 史明、高橋 剛
東京芸術大学
北川原 温、山崎 日希、吉川 青、城代 晃成、星野 義晴
会議録署名委員
高田 一彦、氏原 宏幸
- 5 議題
 - ①開会
 - ②あいさつ
 - ③協議事項
 - ・小淵沢駅周辺地域活性化について
 - ・その他
 - ④閉会
- 6 公開・非公開の別
公開
- 7 傍聴人の数
2人
- 8 審議内容
 - ①議事
 - ・各委員に、地域活性化を目的とし、さらに実行性がある事業について、検討をしてもらっており、その内容について発表をしてもらう。(会長) 本日は、宿題が出ていたと思います。年末年始の大変お忙しいところを申し訳ありませんでした。今後、小淵沢駅周辺地域が少しでも良くなるように、

出来るところから、具体的に何かをやってみようという取り組みを行うために検討していただきました。前回2つのグループに分かれていただき、「商店街の活性化について」、「周辺地域内での交流について」議論をしていただいた結果、一つ一つの概要はバラバラであることは承知の上で、順不同で32個の事業に整理させていただきました。もちろん全て必要なことかもしれませんが、全てを実施することは出来ません。32個の事業の中から、1年間で2つか3つ何か取り掛かれないかと思っています。32個の事業を表にしましたが、そこで皆さんには、自分だったら必要だと思う。自分はこれをやってみたいというものを5つ程選んできていただき、その理由等をこの会議の席上で発表していただきます。やはり皆さんが、やるべきだと多く思われていることからやりたいということですので、人気投票ではありませんが、票の多いものから選びたいと思います。

まずは、前回は思い出すために、リストアップした32個の事業について、北川原研究室から簡単に説明をしていただきます。

北川原研究室より、リストアップした32個の事業について、説明を行った。

(会長) それでは、委員の方一人ずつに優先順位が高いと思われるものの番号を言ってもらい、その理由と問題点や効果等をコメントしていただきたい。

(委員) まず、10番「地域を知ろう！お店訪問ツアー」、14番「商店街の中に地域の拠点」、21番「新旧住民の交流会」、29番「ウォーキング大会 手作りお土産教室」、32番「イベントとのコラボレーション」、これらのイベントを行うために自分なりに考えたのが、「イベント応援団」というプロジェクトを立ち上げたい。今あるイベントで、例えばホースショーやすすらん祭などのイベント時に、馬やすすらんという名前が、もっと脚光を浴びるためのグッズがほとんどありません。以前まちこぶで馬のマークを募集しており、それがどのような提言があったかわかりませんが、そろそろ具体的に馬の形などの特産品を考えたらいかがでしょうか。

イベント応援団というのは、イベント等に参加した方に記念品や参加賞を配るために、手作りのお土産品を制作する。拠点は小淵沢の商工会をお借りしたい。目的は新旧住民のコミュニケーションですけども、外から来た方の中には、才能やアイデアをお持ちの方も多くいらっしゃるので、地元の材料を使った記念品や参加賞を作成したらどうでしょうか。

(会長) 6つのご提案をいただいたということにしましょうか。

そのイベント応援団というのは、ずっとお住まいの方も新しく移住して来た方も含めて、募集をかけてグループをつくり、何かの時にはお手伝いしていただいたり、グッズの開発をしたりという機能を果たすということですね。

(委員) 出来れば、月に2回程度集まって、皆でアイデアを出し合う。そういう時

に学生さん達が加わっていただき。作成に尽力したい方は、作成の時にお手伝いいただければ良いのかなと思います。参加される方の様々なノウハウを入れながら、独立した形で活動出来たらと思います。そして拠点を商工会の事務所を使うということを考えています。

(会長) はい。良くわかりました。続いてお願いします。

(委員) 私は、小淵沢の地区に住んでいないものですから、地域の事情が良く解らないので、勝手なことを言って、笑われるかもしれませんが、お許してください。

私は、拠点づくりということで、2、3挙げさせていただきます。14番「商店街の中に地域の拠点」です。今、高齢者の方の集まる場所が無いのではないのでしょうか。サロンのような気軽に寄り集まれる場所が無かったり、出歩かなくなったりという事が一般的に言われるようになって来ています。例えば拠点があれば、道の駅のように自分でつくった農産物を持ち寄り、人々の交流が生まれ、商店街の活性化にもつながるのではないかなと思います。地域の方達が気軽に目的を持って、立ち寄れる拠点のようなものが商店街の中に必要なのかなと思います。

それから、16番「生涯学習センターの立て直し」ということですが、私はソフト面の充実というものを考えています。学習や交流の拠点としての役割を果たしていけるのではないかなと思います。

25番「子供達の拠点をつくろう」、26番「子供向け 自然体験イベント」について、これらの活動の場やイベント等が求められていますけども、一番の問題は、従事するスタッフだと思います。ボランティアと言っても責任が必要になってきますので、まったくの無償ボランティアというのでは、難しいとは思いますが。スタッフを揃えて、拠点を整備することによって、文化祭やイベントをきっかけとしてやっていけるし、ゼミやサークルなどの活動をボランティアによって企画してもらえれば良いと思います。ソフトの充実というのは、人的整備から始めないとうまくいかないのかなと思います。

それから、もう一つ、駅の観光案内所の中にボランティアガイドバンクを設置し、要件に応じて人を選んでガイドをお願いするような仕組みをつくったらどうでしょうか。旧平田家住宅など小淵沢町には史跡や名所が色々ありますので、魅力をアピールすることが出来るのではないのでしょうか。

(会長) それでは、続いてお願いします。

(委員) 11番「駅北側遊休地モニュメント制作」について、実は3年ほど前に観光協会に北川原先生にモニュメントのことで、何か良いアイデアがあればお願いしたいということで、100万円を確保してあるので、考慮しておいてください。

私もこの会には、観光協会の立場で参加していますので、その立場での意見を言わせていただきます。

20番「フィオーレの活用」ですが、フラワーパークの営業を休止してから、ずいぶん経つのですが、あれだけの施設を今日まで放っておいたことに、非常に憤慨しています。多額な費用を投入し、立派な施設を作ったのに、うまい形で活用がされていない。真剣に活用方法を検討し、実現出来ないかと思えます。

それと同時に、馬術場の施設ですが、フィオーレと併せて、素晴らしい施設が2箇所もあるのだから、フル活用して、将来小淵沢に利益をもたらしてくれたら良いと思っています。

市外からの集客を期待して話をしていますので、24番「道の駅につづけおしゃれな場所をつくって人を呼ぶ」ですが、ぜひ人が集まる拠点を駅前にも造っていただければ、人の流れや車の流れが生まれると思います。若い力を持って、ぜひ実現出来ないかと思えます。

それから29番「ウォーキング大会 手作りお土産教室」ですが、第1回目のウォーキングを今年度開催することが出来ました。小淵沢だけの財力や人力だけでは実現が難しく、北杜市の観光協会とのタイアップで実現が来ました。当初700人程の募集を行っていたのですが、実際には350人くらいでした。第1回目としては大成功だというおすみつきをいただきましたが、これから回数を重ねるごとに参加者が増える可能性は十分にあるということで、これからは強力に進めていきたいと考えています。ご承知のとおり、ホースショーにしてもウォーキングにしても、どうしてもボランティアの力を借りなければ実現出来ませんが、なかなか協力してくれる人の数も限られています。一つのイベントを盛り上げるには、相当な人力とアイデアも体力も必要になってきますので、そういうことを考慮しながら進めて行かなければならないと思います。それから32番「イベントとのコラボレーション」について、商工会の青年部が一生懸命頑張っているすずらん祭や我々が開催しているホースショーですが、お互いがアイデアを出し合って、それぞれのイベントが特徴あるものにしていけたらなと思います。

何でもかんでもイベントをすれば良い訳では無くて、小淵沢へ多くの人達を呼び込む。そして町内にお金を落としてくれるようなまちづくりが出来たら良いと思っています。

(会長) それでは、続いてお願いいたします。

(委員) 私は、いくつかあるプロジェクトの一つにして、考えてみました。10番「地域を知ろう！お店訪問ツアー」、13番「商店街ポイントカード ウォークラリー」、29番「ウォーキング大会 手作りお土産教室」を一緒にしまし

た。以前、私が企画してことを思い出しながら、話をしたいと思います。「小淵沢の良い所探しウォーク」という名称で、観光シーズンに外から来るお客さんも含めて、商店や観光地を周って写真を撮る。一定の時期にこのような催しがあるとなると、店の陳列や飾りに注意し、改善をしていく中で観光客を受け入れて、その状況の写真を撮ってもらい、展覧会を開きます。ポイントカードという提案もありますが、店を周る時点で、物を買わなければならないという圧力があると、なかなか参加しづらい。店の写真を撮って歩くということであれば、店にも入りやすいし、店の方も事前にその催しがあることを承知の上で開催するのであれば、抵抗が無いのだなということを感じたことがありました。この3つのプロジェクトを一緒にしてやってみたらいかがでしょうか。参加された方の中には、絵画という方もおりましたが、展覧会を開いて表彰します。

15番「空き家再生」、19番「旧平田家利用」、23番「数あるギャラリーの拠点」、30番「地域に開くオープンギャラリー」ですが、これも一つの考え方で、使えるところがあれば、地域に多くの芸術家の方がいるということですので、交流の場としていけるとと思います。同時に教室にも使えれば、ある程度の資金も得られるのではないかとということで、考えていったらどうでしょうか。

(会長) ウォークラリーやウォーキングなどの回遊性のある催しや空き家対策や旧平田家を利用した拠点について、大きく2つのご提案をいただきました。

それでは、続いてお願いします。

(委員) 32個の事業を見まして、気になったことについて説明させていただきます。

32番「イベントとのコラボレーション」です。商工会青年部が長年取り組んできた、すずらん祭を取り上げてもらっているのですが、まだ色々やりようがあるのかなという気がします。これまでは、青年部だけで考えてきたので、様々な意見が入れば、内容も広がりを見せるとと思います。それに伴いまして、23番「数あるギャラリーの拠点」ですが、昨年のすずらん祭で東京藝大の協力を得て、地域の作家さんの作品を半日ほど展示していただいたのですが、半日だけではもったいないと思いました。

26番「子供向け自然体験イベント」ですが、これも青年部で新たに何か出来ないかなと話をしています。子供向けのイベントを開催すれば、それに伴って、親御さんもついて来るので、お客として期待が出来るのではないかなという話も出ています。

7番「男の料理教室ツアー」というのが開催されているようですが、知りませんでした。

(会 長) ありがとうございます。続いてお願いします。

(委 員) 私もいくつかの提案がありますが、自分が最初に提案したものですから、3番「高校生駅舎清掃ボランティア」です。たまたま帝京第三高等学校の先生と話をしました。チアリーディング部の顧問をしている先生です。小淵沢のイベントなど、協力出来ることがあれば、お手伝いしたいと言ってくれたのですが、これは駅舎の清掃ボランティアについてだけでなく、17番「文化祭を外に広げよう」、18番「高校生にアピール 地域のいいところ」など、文化祭に参加したり、イベントにも参加したり、きっと手伝ってくれるのではないでしょか。

25番「子供達の拠点をつくろう」、26番「子供向け 自然体験イベント」ですが、拠点と言っても、自然体験をさせるにしても、北杜市内にはたくさん自然を体験できる施設があります。高根町では、キープ協会が子供や親子を対象に様々な催しを行っていますので、このような方の協力が得られれば、小淵沢でも実現が出来ると思います。私も八ヶ岳の森の保護を目的とした団体に入っているのですが、こちらの団体にも声をかければ、協力してくれる方もいます。

(会 長) わかりました。続いてお願いします。

(委 員) 私の方からは、十数年まちづくりに関わってきた価値観から言いますと、10番「地域を知ろう！お店訪問ツアー」、14番「商店街の中に地域の拠点」、15番「空き家再生」、21番「新旧住民交流会」、28番「地域の問題を分かち合う勉強会」、それぞれをどういうことか説明しろと言われればしますけど、そもそもこの取り組みは、駅周辺の活性化という話で検討をしている訳ですが、基本的には北杜市の担当部署と東京藝大の北川原研究室のメンバーが主導で考えられているのではないのでしょうか。逆に質問したいのは、先々活性化がされる状況というのは、どういうことをイメージされているのか聞かせていただきたい。この資料を見させていただいても、問題点のところ、誰が管理するのか。誰が実施するのか。誰が音頭を取って全部をやるのかというところが、全てにおいて共通する問題点であって、今の時点でそのイメージが出来ていないといけないし、活性化というのはどういうことだと定義づけているのかということをも主導されている方達の考えがあればお聞きしたい。

(会 長) この議論の進め方の質問なので、私の方から答えます。

昨年来、このメンバーで議論をしてきました。私の印象は、市が主導するとか、北川原先生が提案するとか、事実過去にありました。ただ、私は違っていると思っています。これまでの数回、むしろ委員の皆さんからご提案いただいて、私はまとめ役に徹し、皆さんがこの町をこうしたい、こうすべき

ではないかという意見をいただいて、その中で役所は何をするべきか、北川原先生には何をさせていただくべきなのかというように、発想を変えたいと思って進めてきています。多分、活性化のイメージは皆さんそれぞれ違うと思いますが、私は今あえて、役所から形式的なことを聞きたいとは思っていませんし、むしろ委員の皆さんが、町を元気にしたいということの具体的な取り組みを一步踏み出すために、何をしたら良いか考えていただきたい。ここに32のプロジェクトが上がっていますが、これは前回皆さんから出た提案でありますので、皆さんがこうしたいという意見があつて、優先順位が高ければ、その問題について詳細に議論をしたり、あるいは、類似例というのは日本中にたくさんありますので、それを北川原研究室に調べていただいたり、役所が今後どのように法的にも予算的にも関われるかということの次のステップで話がしたい。ですから、まず皆さんの意見の中で必要性が高い、または自分はこれをしたいということをごここで聞きたいということです。

(委員) 北杜市にしても北川原研究室にしても、それなりのイメージがあるのであれば、私もそれを無視した発言は失礼かと思いましたので伺いました。

その上で、私も過去に様々な商店街の中心人物などの話を聞いてきています。32の項目ですが、これらは一種のイベントだと思えます。これら全てについての問題点が、誰が行うのかという素朴な問題だと思えます。この場でアイデアを出した人が実施出来る訳ではないと思えます。確かに、この地域にボランティア精神を持った方達が多くいることは知っていますが、地域の住民が自発的に実施するという理屈でないと継続はしない。継続しなければ、経済効果にもつながらない。ボランティアというのは、もってせいぜい3年か4年が限度ですので、自発的に立ち上がるという姿が基本だと思えます。市民が自ら音頭をとって実施するということです。そういう環境作りが地域として出来るかということです。魅力的な地域づくりということに焦点を絞って、地域づくりをしないと、自発的行動にはなかなか出ないと思えます。

具体的には高松市の丸亀町商店街ですが、規模は全然違いますけど、理事の方がおっしゃっていたのは、当時はまちづくり組織が汗水流してやってきたが、やりきれなかった。今では年間300日以上、地域住民が自発的にイベントを行い、人が集まるということです。魅力づくりが出来ている。人口の問題なども考えながらうまくバランス良く地域づくりが出来ているということです。

やりたい方達の意見に対して、聞く耳を持つということが出来ていないと、いくら素晴らしいアイデアを創ったとしても、小淵沢商店街の人達にあなた達でやってみてくださいと言ったって、自分達が計画段階で関わっていない

のに、自発的な気持ちにはならない。私は長いこと商店街を見ていてそんな感想を持ちます。そういう視点での考え方を持っていただければありがたい。

(会長) これからの進め方についての意見だと思いますので、私の意見を少し述べさせていただきますと、32の項目が出ていますけども、確かに統一感も無いし、他人事な部分も多々あると思います。それは承知の上で、皆さんはなんらかの形でこの地域のことを考えている方達なので、自分からしたいということでは無いけど、地域がこうあるべきで、こうあって欲しいということをまずは聞いてみようと思いました。その中で、ウォークラリーでも空き家対策でもかまいませんが、もしこれが必要ではないかと思い、それを実施するにはこのメンバーでは駄目だということになれば、そのためのワーキンググループのような部会をこの委員会の脇につくって、それに関係する人達の部会の中で議論しながら、親委員会と子委員会との関係や当然予算も必要になりますし、技術的なものも必要になりますので、3つか4つの部会が作れば良いかなと思っています。その時には、皆さんも参加していただくのですが、それ以外の人達も加わっていただいく、そんなイメージでいます。

(委員) ありがとうございます。今、会長が言われたように、私もそういうイメージをぜひ持ちたいと思います。今後、会議も何回か行われると思いますが、やはりこういった色々なアイデアが出て来るには、観光協会や商工会がある訳ですから、そのような団体が入っていただいての話し合いも必要なことだと思いますし、意識も伝えられる訳ですから、地域全体でということにつながると思いますので、意識してほしいと思います。

(会長) 今後の進め方も重要でしたので、問題提起ありがとうございました。続いてお願いいたします。

(委員) 私も複数のプロジェクトをまとめた形で話をさせていただきます。

1番「新しい駅舎に自分の木を植えよう」と12番「駅北側遊休地に木を植えよう」を複合したものになります。前回私が提案させていただいたものですが、その中で新しい駅舎が完成した時には、多少の木を植えることがあると思います。地域住民の方や企業でも良いのですが、協力していただけるという人達に、自分達で何かに関わったということを残していきながら、新しい駅舎に対して、ピーアールないし、駅舎での活動を継続してやっていきたいということを含めて、何か実施が出来たら良いなと思います。広葉樹や針葉樹、果物になる樹もありますから、何かに活かせる物が出来るのかと思います。

2つ目に、4番「新駅舎多目的スペースの活用」と28番「地域の問題点を分かち合う勉強会」を複合したものですけども、もともと駅舎に多目的スペースが造られるということが前提ですから、こちらがせつかくあるのです

から、ギャラリー等の運営は必ず起こるであろうと思われます。まず、人が一番集まりやすい場所であり、外からスペースが見える場所ですから、そのような場所で勉強会をして、誰が入ってきても構わないような、開放的な雰囲気であれば、開催しても良いと思うし、勉強会をした後、その内容を多目的スペースに展示をしながら、当日参加出来なかった人に対しても内容の報告や、ポストを設置して、意見を出してもらえるような空間として利用しても良いのではないのでしょうか。継続した利活用と、何かを発信していく場としたら良いと思います。

3つ目は、19番「旧平田家利用」というのがありまして、もともと小淵沢町内での活用すべき場所だと思っています。こちらには、ボラティアの方が常時いるのを記憶している。こちらでは以前、別のワーキンググループで紙芝居の朗読会を開催する機会がありました。郷土資料館では、機織りの体験が良く開催されており、多くの人を訪れたことがありました。ワーキングスペースとして活用出来るとしています。

先程出された「小淵沢の良い所探しウォーク」ですが、他の地域の事例などを聞くとタクシーを利用したりしているようです。例えば、甲州市ではワインタクシーというものがありますし、他のエリアでも観光タクシーなどは、京都や浅草でもありますが、小淵沢でもタクシーに協力をいただければ可能かと思っています。

私は、最終的には民間が自発的に何かをしなければならぬと思うのですが、その中でネタ出しとかワークショップなどのアイデアをこちら側からも出すべきだとは思っています。

29番「ウォーキング大会 手作りお土産教室」と32番「イベントとのコラボレーション」ですけれども、すずらん祭を商工会青年部が実施しています。7年程前からすずらん祭実行委員会を立ち上げていたので、商工会青年部での実施はしないということで動いていました。しかし地域の問題や人員不足の問題等があり、商工会青年部自体でしか行うことが出来ない状態となりました。去年は、実施しなくなる予定でしたが、多くの方からの要望により継続となりましたが、あと何年続けられるかはわかりません。先程の意見にもありましたが、イベント応援団など、何かしらの新しい模索をしていかないとイベントは出来ないと思います。年間にいくつも実施するよりは、一回でも良いので、良いものを創る方が、小淵沢の発展には良いとは思っています。

20番「フィオーレの活用」ですが、やはりフィオーレというのは、絶対に必要なものだと思っています。敷地が広いということもありますし、少し足を運べば湧水もあります。高速道路も近くを通っているので、走っている車からも良く見えるので、何かを伝えることも容易に出来ると思います。北

杜市内でも最近良く行われていると思いますが、クラフトの見本市でしたり、骨董でしたり、清里で最近行われている犬のイベントなんかも実施が可能ではないでしょうか。駐車場も整備されていますし、様々なことが考えられる素材だと思っています。

(会 長) それでは、副会長お願いします。

(副 会 長) このような委員会をつくるというのは、良いことだなと思いました。この町のことだけでも、良いアイデアがこんなに出て来るものだなと感じました。聞いていて、わくわくしてうれしく思いました。

会長は、活性化に向けた実行性のある事業ということをお話されていると思います。そこで具体的に出来る事は何かと考えてみました。新しい駅舎に展望台をつくることです。今日この支所の一番高いところに上って、周りに見える山々を見てみました。日本の巨峰が見渡せます。新聞などの見出しに日本の名山が見える駅なんて掲載されれば、東京からも近いですし、大勢の方が来てみたくなるのではと思います。設計側と市との調整ですから、太陽光発電施設をちょっと退かせば、実現性がありそうに思います。

2つ目に実現性がありそうなことは、町内にも団体がありますが、活性化を目的とする団体に支援をしたらいかがでしょうか。支援と言うと、市の事務局は心配されるかもしれませんが、私は地域委員会の委員長をされていて、いくらかの予算を持っています。その予算の範囲内で、若い人材を育てたいと考えていまして、支援を行いたい。それと女性の活躍を国でも押し出していますが、非常に大事な事だと思っています。地域委員会を開催して、支援に対する承諾をいただくことが出来ました。では、どこから捻出するかというところですが、観光協会との絡みで、イベントによっては収入が見込めるところについては、収入を増やすように努力をしてもらうように考えてもらっています。具体的には、この会場にもいらっしゃいますが、商工会青年部や女性協議会などに支援をすることに決まりました。ただし、活動が行われない場合には支援出来ませんが、毎年支援は続きますから、非常に魅力的なものですので、真剣に考えてもらいたい。今後市長査定もありますので、私が説明をしますので、出来たら、来年こういうことをしたいと計画を教えてください。

1 1 番「駅北側遊休地モニュメント制作」ですが、関係する所では、市の遊休地になりますし、東京藝大の先生方もお出でになられないと、うまい作品は飾れないと思いますし、もう一つがJRも関係してくると思います。たまたま、一ヶ月程前に市で開催しました講演会に東日本旅客鉄道株式会社の副社長がいらっしゃいました。その時に、今小淵沢駅を整備中でして、北側の遊休地に何か出来ないか考えているので、協力をお願いしてみました。北

川原先生も、JRに関係があるので、先生からも伺ってみますと言っていたので、その辺のお話を後ほど伺えたらと思います。電車や駅から見れば、注意を引きますし、特色も出てくるかと思えます。可能性としますと3者の関係がありますので、なかなか難しいとは思いますが、ぜひお願いしたいことです。

2番「高齢者の集いの場」ということですが、全国的な傾向の中、小淵沢はもっと深刻な状況ではありますが、少子高齢化でどんどん疲弊しています。今朝の新聞でも、一面で大きく掲載されていましたが、認知症の人が増えている。小淵沢町でも高齢化が進み、今後高齢化率も6割ぐらいになる恐れがあり、認知症も増えてくる訳ですが、そうならない工夫を我々でしていかなければいけません。すでに実施している所もありますが、例えばワンコインで年寄りが集まれて、話し合いをしたり、演芸などの活動を行ったりと、工夫をしています。そういうことで、認知症にもなりにくくなります。寒い地域ですので、こたつに入って何もしないでいれば、それこそ認知症になってしまう。認知症を防止する環境をどんどん広げていきたい。小淵沢でも3箇所か4箇所、出てきてはいますので、大事なことだと思っています。

最後に2番「駅に置く地図を自分たちでつくろう」というプロジェクトですが、10年程前にも冊子を作ったことなんかもありました。何も小淵沢駅の周りだけではなくて、特急が停まりますから、小淵沢以外からの人達も利用している訳ですので、小淵沢周辺の地図というのが、必要ではないかなということを感じました。以上です。

(会長) 皆さんありがとうございました。予想以上の多岐に渡って、ご提案をいただきました。考えてみれば、元々皆さんからいただいた提案なので、当たり前と言えば、当たり前なのですが。

いただいた内容を、少し整理させていただいて、こちら側から提案をしますので、お時間をいただきます。

～休憩～

(会長) 副会長から、駅舎の展望台について、ご意見をいただきましたが、これは現在検討を行っているということでしたので、北川原先生から状況の説明をいただきます。

(北川原) 昨年ですが、展望台という宿題をいただいておりますが、現在は屋上に出ることが出来て、360度景色を見渡せる設計になっております。

改札口を出まして、左に行くと駅前広場に下りるための階段がありますが、右に行くと、屋上に出るための階段があります。ただ、バリアフリーには対

応出来ないということで、JRとの調整やコストの問題でエレベーターは設置出来ませんが、階段で屋上に出ることが出来ます。

それからもう一点、駅北側遊休地活用について、JRとはどうなっているのかという質問についてですが、今のところJRとは話が来ていないのですが、我々大学の方で考えているのは、関係する皆さんの協力で、遊休地が良い形になれば、良いのではないかと思います。まずは、以前から提案させていただいていましたが、野外彫刻のようなものを大学の方で何とか調達出来ないかという方向で、一昨年くらいから考えています。野外彫刻を持って来てただ置いても、環境が今のままでは様にはならない。木が季節によって紅葉したり、あるいは芽生えたり、花が咲いたりという自然環境の整備が基本的に必要だろうと思っています。実は、この間JRと話をしましたところ、JR東日本では、いくつかの駅で、駅前広場や駅周辺、駅から離れたところでも、木を植えて森を創るというプロジェクトを展開していきまして、小淵沢駅でもぜひ実施してみたいという話をいただきました。JRがお金を出してということでは無いのですが、JRが音頭を取って、地域の住民とボランティア活動の一環として木を植える。JRのこの活動で北側遊休地に木を植えることが出来そうだという感触を持っています。自然環境が整備された中で、面白い彫刻があるということが良いのではないかと思います。そして全体の取りまとめは、行政にお願い出来ればと思いますが、北杜市とは具体的にはまだ話をしていませんが、そんな考えを持っています。

付け加えますと、野外彫刻ですが、東京藝術大学の彫刻科の先生達や若い人の作品も良いのですが、出来るのであれば、小淵沢と外国との繋がりというものをこの機会に作っていくということも大事だと以前から思っていて、東京藝術大学では、パリ大学やロンドン芸術大学との交流があって、パリ大学の彫刻家の先生に来てもらい、小淵沢を体験してもらい発想した作品を作ってもらおうということが出来れば、とても良いのではないかと私の勝手な思いでいます。

最近では、大学の競争力を高めるための国の補助金制度というものも少しずつ出来てきています。そういった補助金を活用して、そんな形に持って行けたら良いなと考えているところです。

(会長) ありがとうございました。

それでは、大変お待たせしました。今日皆さんからいただいた意見を、本当に必要性が高い、自分がやってみたいということをいくつかピックアップして、それにふさわしい人達を含めた分科会を作っていったらどうかという僕からの提案であります。いただいた意見を混乱しながらですが、いくつかグルーピングしてみましたので、話を聞いていただいて、さらにご意見を

いただいて、本格的にまとめるのは次回以降で行って行きたいと思います。32個のプロジェクトとその他の中で、2人以上の意見があったものについては取り上げました。一人の意見については、大きなグルーピングには取り上げないけども、議論の中で参考にしていくという扱いにしたい。出されたご意見を4つのグループに分けて、それを申し上げます。

一つは、ウォークラリーというタイトルだけではわからないと思いますが、10番「地域を知ろう！お店訪問ツアー」、19番「旧平田家利用」、23番「数あるギャラリーの拠点」、32番「イベントとのコラボレーション」、出された意見の中で「良い所探しウォーク」はどうか、また写真を撮って、審査して、展示会をやったらどうかという意見がございましたが、聞いていて魅力的だと思いました。ひょっとして、それをプロットしてみると、ここにはあまり良いものが無かったから、良いものを創らなければいけないとか、町を再発見出来るとても良い事業だと思いました。

二つ目は、拠点とありますが、かなり数が多いです。4番「新駅舎多目的スペースの活用」、14番「商店街の中に地域の拠点」、15番「空き家再生」、19番「旧平田家利用」、21番「新旧住民交流会」、23番「数あるギャラリーの拠点」、28番「地域の問題を分かち合う勉強会」なども含めて、拠点での利活用の方法として、挙げさせてもらったものもあります。大きなグループにはなりますけど、一つ仕組みとかルールのようなものを作って、いくつかの拠点を回して利用する方法もあると思います。

三つ目ですが、20番「フィオーレ活用」ですが、広い意味では拠点なのですが、フィオーレはあまりに大きいし、小さな拠点の利活用の方法とは、違うだろうということです。フィオーレをどのように活用していくかということは、他のものにも相当関係してくることなので、一つで取り上げた方が良さだろうと思いました。

四つ目は25番「子供達の拠点をつくろう」、26番「子供向け 自然体験イベント」については、皆さんの意見の中で、次世代の子供達のことを考え、都会からも来ていただくことを考えると、とても重要ではないかという意見が印象に残りました。

ここには書いてありませんが、3番「高校生駅舎清掃ボランティア」、17番「文化祭を外に広げよう」、18番「高校生にアピール 地域のいいところ」を含めて、帝京第三高校の生徒さんのことをもっと着目していきたい。どのグループに絡めていけるか。子供対象のイベントに絡めていけるかもしれませんし、事業内容、場所、対象となる人という部分で、他のグループにも絡められるかと思いますが、取り上げたらいかがでしょうか。

大きく分ければ、この4つで議論を始めていったらどうかという提案にな

ります。

さらに、副会長からも地域委員会として、若者や女性の活動に支援していきたいということで、この推進委員会としてもとても重要なことだと思ひまして、挙げさせていただきました。ただ、これは分科会を作るという方法では無く、副会長を中心とする地域委員会の中で、きちんとやっていただければ良いのかなと思ひます。分科会とは言わなくても一つの推進協議会の中での重要な方向付けだと思ひました。

モニュメント等の提案がありましたが、今動きつつあるということで、委員会としても相当関心を持ってやっていくことではあるけども、別に分科会を作って議論をすることでは無く、この中で北川原先生あるいは、事務局の方から報告をいただくというテーマにして扱っていくということです。

4つのグループについて、どのような体制を作ったら良いのか、あるいはどういうメンバーを新たに加えたら良いか、予算をどうするのか、いつから仕掛けたら良いのかということ、今後議論していきたいと思ひますが、これはあくまで、私の勝手な意見でありますので、ちょっとずつ方向性について、各委員から意見を伺って、次回につなげていきたいと思ひます。

(委員) 今、私が考えていることは、他からの助成金制度について耳に入っていて、まちづくりに対して支援があるとのこと。自分達が立ち上げたところに、上限が200万円です。

最初はボランティアで何か始めたいと思ひていました。観光協会の役員にもなっておりますので、イベント時に活用出来るグッズの開発等を考えていました。女連協では、女性が手作りで何かを作るという活動を行っていましたので、手作りのグッズを作りたいという意欲があります。今回のグループの中で、どこに加われるのかは難しいと思ひますが、私はそのことはそのことで、進めていきたいと思ひています。その後、関わりは出て来ると思ひます。

皆さんで力を合わせるということが大切だと思ひるので、分科会についても、色々な考え方で、多次的に取り組んでいければよろしいと思ひます。

(会長) ありがとうございます。先程、相談を受けてお話したのですが、いくつかの財団で、市民活動に助成をするという申込みの締切りが今月です。その相談を受けて、拠点をどのように利用しようとか、どういう活動しようとか、市の予算ではなくて、外部の支援を受けて、自主的な活動をするということは、それはもう素晴らしいことなので、ぜひとも申請をされたらどうかということをお話されました。

(委員) やはり、盛り上がっていかないとボランティアにしても何しても、駄目になってしまうと思ひます。形だけを作っても、意識を高める必要があると感

じました。

前にもお話ししたことがありますが、小淵沢小学校に機関車がありますが、学校に機関車があることは素晴らしいとは思いますが、学校の片隅にあるだけでは、もったいないなと感じています。持ち出して有効活用したらどうかなんて思っていますが、思いつきの発言ですいません。

(委員) 実は、36年目を迎えたホースショーで、初めて帝京第三高等学校のチアリーディング部に参加してもらいました。あの舞台上でパフォーマンスを披露していただき、たいへん好評でした。また、よさこい踊りのグループにも参加していただきました。きっかけは出来ましたので、おそらく次回も参加をお願いすることになりますが、どんどん参加していただき、広がっていければよいなと思っています。それと、先程も話しましたが、棒道ウォークを開催し、第1回目だったのですが、ぜひ継続していかないと、1回で終わってしまっただけだと思えます。おかげさまでホースショーは36年間続いておまして、年々参加者も増え、今では15,000人くらいの方に来ていただいています。町内外からの集客を念頭に置いて、観光協会は計画を行っています。ぜひ継続してやっていく必要があります。

(委員) 先程も話をさせていただきましたが、「いいところ探しウォーク」ということで、私が長坂の商工会にいる時にイベントとして実施したのですが、当時はデジカメなんて無い時代でしたから、使い捨てカメラを参加者全員に配布しまして、参加者は様々なところを目的に写真を撮って来ました。経費的には、そのぐらいでして、あとは景品をいくつか出すぐらいでした。

商店の中まで、撮影させて欲しいと前もって商店街にも承諾を得ていたので、意外に普段は見る事が出来ないような店のレイアウトというもの、その時に出来上がった店もかなりあったように記憶をしています。商売につながったという店が出てきたのかなという思いがしておりますし、こういった事業を行うとなると、費用や人員が必要になる訳ですけども、そういったものが、当時の商工会青年部にかなり活躍をしてもらった中で、意外に経費もかからずに実施出来たという思いがあったものですから、今回ここでもやればどうかという思いから提案させていただきました。

(会長) 今、お話を聞いて一つ思い出したことがあるのですが、昨年研究でミュンヘンに行きまして、そこでは子供達が自分の住んでいる商店街で自分達が良く利用する商店に、商売について聞きに行く訳です。子供達にこの商店のことを伝えることによって、商店の方々は改めて自分達が扱う商品に対する価値観を発見することが出来ました。

子供達からすれば、あのお店は子供に優しくなったなどマッピングしてしまったのです。うちの店は優しくなかったのかななどの問題が後々起きましたが、

一方ではあの店は子供にとっても優しいお店ということで、ステッカーまで作って、貼ってしまったりしました。普通にやっていたら、商店街はそれで良いのかもしれないのですが、子供達に伝えることで、子供達から情報発信をして、かき回してしまっただ部分もあるのですが、子供を対象でやってみようとか、女性を対象でやってみようとか、色々な形で再発見することは、ウォークラリーという名称では無くなるかもしれませんが、夢が広がるなと思います。

(委員) この4つのグループで素敵な拠点が出来たら良いなと思っています。

あと、追加で私共の話し合いで出ているのが、今度1月18日に北杜市と韮崎市の商工会等で婚活イベントの話がありまして、今回は韮崎市と明野のエリアを周るような計画になっていまして、素敵な拠点が出来れば、小淵沢のエリアでも開催出来るかなと思います。少し何かを継続的にやりたいなと思っています。

(委員) 帝京第三高等学校のチアリーディング部の顧問の先生も協力してくれると言っていますので、ぜひ次につなげて欲しいと思います。

あと、自然体験イベントですけれども、小淵沢にいらっしゃっている方が、山梨大学の環境系の先生だと思いますが、コラボレーションして、地域で子供達と学習をしています。それを自然体験のイベントにつなげられるのではないかと思います。予算などをどうやって捻出するかは今後検討が必要ですが、環境保全基金なども市役所にありますので、それを利用しながら企画出来るのではないのでしょうか。

でも、地元の方を巻き込んでいかなければならないと思いますし、我々が中心になるのではなく、地元の方が自ら真剣に考えてもらえたら、お手伝いをしていきたいとは思っています。

(委員) 基本的にこだわりたいのは、今日も皆さんからボランティアという言葉が聞きました。皆さんはもちろんボランティアという言葉の意味をご存じだと思いますが、確認の意味でお話をしたいと思います。そもそもボランティアというのは、自発的精神だと思います。人から言われてやるとかやらされるということもボランティアだと印象を受けるかもしれませんが、本質は人から言われるまでも無く、自分から立ち上がり、取り組むということです。それを生み出すのは、地域づくりや質づくりということにつながるのだと思います。活性化というのは、長い不景気の社会の状況があって、地域がそもそも停滞してしまっているところに、良質な刺激を与えて活性化させる。ということは、市民が自ら自発的に動き出すという仕組みづくりが基本です。私共まちづくり組織としては、そういう視点で取り組んでいるつもりですが、そのへんを理解していただければありがたいかなと思います。

もう一点、先程北川原先生からも説明がありましたけど、北側の遊休地に活性化につながるアート作品を置くとか、樹木を植えるとか、今後皆さんで話し合っ、て、実行していくか決めれば良いと思うのですが、やるとすればプロセスが重要だと思っ、ていまして、例えばアート作品をつくるのであれば、パリの方が来ようが、外国から来ようが、どなたが来てもよろしいかと思っ、ています。ただし、やっぱり作品は、この小淵沢、八ヶ岳、北杜市のイメージを表現していただくというのが、基本的な考えだと思っ、ています。なので、この地に一定の期間滞在していただき、ここで作り上げていただく。それも芸術家だけでつくるといっ、うよりも、そのイメージが出来たものの資材を地元で協力して集めて、提供をして作り上げていく。これは具体的には徳島県の神山町で行われていて、実績を上げています。なんらかの形で協力して取り組むということが、活性化の源をつくるということだと思っ、ています。やることになっ、たらそのことを意識して、取り組むような意識づくりを考えていただきたいと思っ、ています。

(会長) 小淵沢ならではの企画を考えましようということをおっ、しやっていたと思っ、ています。ありがとうございました。

1番「新しい駅舎に自分の木を植えよう」、12番「駅北側遊休地に自分の木を植えよう」について、僕はとても素晴らしいと思っ、ていまして、今回のグルーピングには入っ、ていないのですが、実は子供達に木を植えさせたら良いのではないかと思っ、ていまして、僕の中では勝手にグループの中には入っ、ていますのでよろしくおっ、願いいたします。

(委員) ありがとうございます。

次世代の話の中で、帝京第三高校がありますが、帝京短期大学もそうす、し、アルソアの専門学校など多くの学校関係も絡められると思っ、ています。

今回色々な意見が出されまっ、して、自分が昔から思っ、ていることなのですが、先代の皆さんから継続してやっ、ていっ、ることがあるのですが、僕はこういっ、うのを見ていっ、て一つの文化だと思っ、ているのですが、今ある文化を残して、継続して何かをやっ、ていくのか、それとも駅舎も含めて新しくなっ、たものから、新しい文化をつくっ、て、次世代につなげていくのかといっ、うことを自分としての課題としていっ、ます。

私の中では、駅といっ、うものが絡んでくるのは、必ずだと思っ、ていっ、ます。先程も駅の多目的ホールについて、話をさせてもらっ、いましたが、駅から八ヶ岳や南アルプスに行けるように、駅自体を拠点として多くの人が集まっ、て、小淵沢の魅力を発信出来れば、かなり面白いもの出来るのではないかと思っ、ていっ、ます。

我々が実施しているすずらん祭もそうす、ですが、駅前の商店街や地域を巻き

込んでのイベントになります。何かを残し後世につなげていくとか、新しいものをつくって行く時に、どうしたら良いのか議論を重ねながらやっていきたいと思います。

(副会長) 今日本では、地域創生ということが盛んに言われていまして、元気のあるところには、国で考えてあげようという動きが出てきています。出来ることなら、こうした提案が市に持ち上がり、そして手を挙げて、北杜市の創生事業はこれだというものにつながっていけばいいなと感じています。そう考えた時に、やはり特色が無ければ駄目です。どこでもやっているような事で手を挙げてても意味が無い。小淵沢の特色とはなんだろうと考えると、北川原先生も以前言っていました、この地域では芸術的な場所が多く点在する。これは日本でもなかなか無い特徴ではないだろうかという話を前にも聞きました。物をただ作るという事は出来ますが、芸術というのは心を豊かにし忘れてはならないものの一つだと思います。出来ればこの地域に芸術的なものが広がり、地域創生につながるようなものが出来れば良いなと感じます。

(会長) 地域創生事業は、次年度のことだと思っていたのですが、今年度の補正でも国はかなり用意をしているようです。したがって、この一ヶ月の間に信じられないくらい予算が既に動いています。先程おっしゃった、こういうアイデアをうまく事務局とまとめて、また北川原先生にご協力いただきながら提案すれば、ひょっとしたら今年度予算がついてしまうような可能性も皆無ではありません。実は昨日この話を聞いたばかりで、驚いて今日お話ししようと思っていました。どれだけ特色のある事業が出来るかということだと思います。

一応、かなりの無理があったかもしれませんが、4つあるいは2つを加えて6つで、次回もう少しそれぞれの進め方について議論をしていきたいと思っています。そのために事務局と相談して、それぞれが今年度どのくらい出来る事があるのか、次年度を目標にするのか、もう少し期間が必要なのか、今後どのような方を含めて検討していけば良いか、次回また案を出しますので、議論をしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

・その他

次回開催予定時期について

振込先口座届について

④閉会

会議終了 午後3時57分